

第10回aacaサロン 陶額堂の仕事—最近の事例を中心に

会員増強委員会

会員増強委員会ではアート系新入会員の方のご紹介を中心に、aacaサロンを開催しています。

2023年7月に法人会員となった陶額堂は、意匠提案から自社工房での陶やガラスの作品制作、現場設置までを担うという、作家ともギャラリーとも違ったスタイルで創作活動をされ、建築空間における美術装飾にも多数関わられています。今回のサロンでは、その作品事例や制作過程について紹介していただきました。

前半は、様々な建築の装飾作品や、水面のゆらぎを表現したカーヴィングガラスの展示、無数にある陶の色見本の展示販売イベントなどを紹介。加えて、工房での制作の様子もビデオを使って非常に解りやすくご説明いただきました。

後半は建築とガラス装飾の共創作業

のエピソードを日建設計の担当者と共に披露していただきました。高級マンションの館銘板で、柱からガラスが溶け出しているような造形制作における試行錯誤とその拘りには、非常に感銘を受けました。またホテルのチャペルのガラス装飾など、まさに今創作中の臨場感あるお話も伺うことができました。お互いにチームの一員として切磋琢磨しながら創り上げていく共創作業の熱量が大変よく伝わってきました。

なお今回は、サロン開始の前に先般日建設計が本社フロアを改装して設えたオープンノベーションの誘発施設「PYNT（ピント）」も見学させていただき、大変盛況な会となりました。

今後も皆様からの新入会員のご紹介をお待ちいたします。（委員長 松本哲弥）

開催日：2023年10月3日
話し手：陶額堂 代表取締役 宮廻正広さん
デザイナー 樋口典子さん
モデレーター：日建設計 加々美亜土さん
会場：日建設計本社イベントスペース
+PYNT（見学会を同時開催）



カーヴィングガラス



陶の色見本展示販売



サロン風景

第203回aacaフォーラム 街とアートが織りなす出会いの場（その2）

フォーラム委員会

aacaは会員の多様性を尊重し包括的で双方向の対話のある環境を提供する場として「aacaフォーラム」を開催しています。第203回となる今回のaacaフォーラムは、前回に引き続き街に繰り出しました！

アートと一体となった再開発で常にダイナミックに変化し続ける東京・丸の内は、「大手町・丸の内・有楽町」の3地区でエリアに構成されています。

まずは丸の内二重橋ビルにあるDMO東京丸の内に於いて、丸の内の「アートと共生する街づくり」の沿革や取り組み内容、様々な貴重なエピソードを、三菱地所の服部さんと大原さんから紹介していただきました。

スマートシティの実現が都市の重要課題となっている今、「丸の内」はウォークアブルなコンパクトシティの代表例としても捉

えられています。その骨格軸となる「仲通り」を中心に多様な試行錯誤が積み重ねられていく「今まで」「今」「これから」の流れの一端をシームレスに認識することが出来ました。

公共スペースにアートやイベントを仕掛けるため警察を含む行政との調整がいかに大変かであるか等、実感のこもった苦労話も貴重でしたが、これからは「街の推進力=アート×ビジネス」というビジョンの中で「今までは『アートがある街』を目指していたが、これからは『アーティストがいる街』を創出する」という「アートアーバンイズム」という考え方は説得力を感じました。

後半は丸の内に点在するアートプログラムの事例を見学。レクチャーをフィールドワークで追体験することができました。

（委員長 萩尾昌則）

開催日：2023年11月25日
講師：三菱地所 服部謙一さん 大原大志さん
会場：DMO東京丸の内



三菱地所 大原大志さん



会場風景



丸の内仲通りを散歩